

ある家族の新年会での年金談義（２）

団塊の世代に属するある年金コンサルタントが、妻の実家に新年の挨拶に訪れた。元大学教授の義父（お爺さん）を交えての年金談義は、まだまだ議論が尽きないようである。

（大学生の孫）年金制度にはまだまだ解決しなきゃいけない問題が山積みだってことは、よくわかったけど、実際のところ、解決に向けた取り組みは進んでるの？報告書とかは色々出てるみたいだけど。

（コンサルタント）さっきも言った「21世紀に向けての社会保障」（社会保障構造の在り方について考える有識者会議）や「新しい世紀に向けた社会保障（意見）」（社会保障制度審議会）などが出されている。いずれも、裕福な高齢者に負担を求めたり、課税対象を拡大するといった財源の確保と、医療や介護など他の社会保障制度とあわせて、年金制度を考えなきゃいけないと主張している（図表）。

（お爺さん）とはいえ、具体的な道筋は全然見えんのか。そりゃあ、財源を確保しようと思えば、負担を増やすか、給付を下げるしかないんじゃないから、誰もやりたがらんわな。

（コンサルタント）そうですね、なかなか具体論には至らないのが現実ですね。でも、医療保険制度は2002年度に改革を予定しているし、介護保険制度は2005年度に見直すこととなっています。年金制度だって、2004年度が見直しの時期ですから、それまでには、社会保障制度全体のビジョンを描いておかないと。となると、あと1～2年で結論を得ないと、このまま超高齢化社会に突入ってことになってしまいますからね。

（大学生の孫）もう時間がないってことだね。こりゃやばいや。

（お爺さん）年金給付課税や支給開始年齢の引上げなど、年寄りいじめの話ばかりじゃ。わしらからとる前に、基礎年金の未納未加入問題を何とかしろと言いたいわい。

（コンサルタント）年寄りいじめじゃないんですよ。資産などがあって裕福に暮らせる人には、相応の負担をお願いしますというだけのことでですから。でも、おっしゃるとおり、基礎年金の未納未加入は大きな問題ですね。

（大学生の孫）それも年金制度に対する不信感からきてるんじゃないのかな。僕だって、そんなもらえるかどうかかわからない年金に加入するぐらいなら、自分で貯金したいよ。

（コンサルタント）う～ん。年金制度への信頼回復がまず重要ってことか。ただ、不信感もそうだが、定額保険料ってことで、低所得者層に過重感があることも大きな原因だろうね。

（お爺さん）自由党や民主党は、保険料を消費税で賄えば、未納未加入問題は解決するとか、言っておるんじゃない。その辺はどうなんじゃ。

（コンサルタント）確かに、二つの報告書でも大きなポイントになったのは、1階の基礎年金を社会保険方式にするか、それとも税方式にするかという問題ですね。一部の学者は、未納未加入者が3割いる現実とか、専業主婦（3号被保険者）と共稼ぎ夫婦（2号被保険者）の間の不公平が解消できて、財源も安定するので税方式が望ましいという議論を展開してきました。これに対して、二つの報告書では、現在の社会保険方式に問題があるのは認めつつも、社会保険方式の維持を主張しています。それは税方式にすると相当な増税になることが一つ、また、

生活保護と同質化することがもう一つの理由です。

(大学生の孫) 生活保護になると、なぜいけないの。

(コンサルタント) 保険料を払ってなくても、年金が貰えるようになると、働いて貯金をして自分で老後の準備をするのがばからしくなるからだよ。また、生活保護には、所得や資産額による給付の制限(ミーンズ・テスト)があるため、「皆年金」ではなくなる上、さらに働く気をなくしてしまう、というわけだ。

(お爺さん) う〜む。わたらの世代の考えからすると、いくら国が老後の面倒をみてくれるからといっても、健康なら働くのが当たり前じゃがのう。

(大学生の孫) 僕の友達には、就職せずにフリーターをやろうという奴も多いよ。そいつらにしてみれば、最後は国が面倒をみてくれて安心だから、あまりがつつしなくても良いかなという気がするかも。今の社会保険方式のままにしておいた方が案外、将来が不安なのでみんな一生懸命働くんじゃないかな。でも、いまのように学生から保険料を取っておきながら、一方で納めていない人が沢山いるというのは納得いかないなあ。

(コンサルタント) 未納未加入者対策としては、保険料を払わなかった場合のデメリットを、もっとはっきりと知らしめる必要があるかもしれないな。ただまあ、税か社会保険かというのは、どうもイデオロギー論争になっているところもある。税か保険かというステレオタイプの議論は少し横に置いて、①誰が収めるのか(就労者か全成人か、高齢者も含むのか)、②何に対して収めるのか(消費か所得か)、③どうやって計算するのか(定額か定率か)、④誰が徴収するのか(税務署か社会保険事務所か)、⑤誰に給付するのか(全老人か低所得老人だけか)、⑥いくら給付するのか(定額か、所得比例か)など、それぞれを検討した上で、どう組み合わせるのが良いのか、という議論も必要かもしれないね。

※ 春たけなわだが、談義は次回に続く。

図表 二つの報告書のポイント(抜粋)

	21世紀に向けての社会保障 社会保障構造の在り方について考える有識者会議	新しい世紀に向けた社会保障(意見) 社会保障制度審議会
財政方式	<ul style="list-style-type: none"> 積立方式への移行には、二重の負担が大きな問題 330兆円にのぼる負担を一気に顕在化させることは現実的でなく、賦課方式を維持しつつ、積立要素の増大が重要 	<ul style="list-style-type: none"> 積立要素を相当程度維持する必要がある 積立方式は、確定拠出年金とならざるを得ず、セーフティネットの機能は期待できない 国民年金の強制徴収の活用、加入のメリット、未加入のデメリットを社会保障制度に仕組む
拠出方式	<ul style="list-style-type: none"> 社会保険方式は給付と負担が連動し、給付は負担に基づく権利として確定するため、国民の理解を得やすい 未納未加入問題については、納付しやすい工夫や厳正な保険料徴収を図ることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 税方式では、自ら保険料を支払って給付を受ける社会保険方式のメリットが失われる 消費税率の大幅引き上げや福祉目的税化は容易でない 事後救済の公的扶助と類似した制度となる
給付水準	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障制度間の重複給付などの整理が必要 公的年金を基本としつつ、勤労収入、私的年金、貯蓄等の自助努力と組み合わせて賄うべき 未納未加入問題などをめぐる議論があり、基礎年金の給付設計のあり方について検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 負担者側の立場に立ったものであることが重要 国民皆保険体制は維持すべき
財源確保	<ul style="list-style-type: none"> 労働環境の整備により、高齢者就労促進、女性就労拡大などを図るべき 保険料引き上げの凍結は早期解除が必要 高齢者にも広く税負担を求める リバースモーゲージの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障給付課税、相続税強化等により、富裕な受給者から財源を調達すべき リバースモーゲージの活用
公私分担	<ul style="list-style-type: none"> 報酬比例部分の民営化にあたっては、移行時の二重の負担をどう賄うかについての合意が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 政府はセーフティネットの提供 民間への移行については、私的年金はスライドに対応が困難、中小企業就労者の所得保障が実質的に基礎年金のみの恐れ、過渡的コストなど困難な問題が多い
世代単位	<ul style="list-style-type: none"> 将来的には個人単位に、必要に応じて見直すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的には基本単位の個人へのシフトを